

アミノ酸配列分析サービス

特徴

- N末端アミノ酸配列を解析
- Edman法によるポリペプチドの内部構造解析に対応
- アミノ酸配列解析の効率を上げるデブロッキング処理に対応

概要

タンパク質のアミノ酸配列をN末端側から決定いたします。本サービスでは従来の約100分の1量でアミノ酸配列情報を正確に決定できる「超微量一次構造決定技術」を用いることで微量にしか存在しないタンパク質のアミノ酸配列解析を可能にしております。また、Edman法によるアミノ酸配列決定を困難にするタンパク質N末端のアセチル化をデブロッキングした上でのアミノ酸配列の決定にも対応しております。

サービス

N末端アミノ酸配列解析

Hewlett-Packard G1005A (Hewlett Packard, USA)、Precise 494 HT (Applied Biosystems, USA)、Precise 494 cLC (Applied Biosystems, USA)を使用して解析いたします。

1. サンプルの調整 (お客様側)



PVDF膜に転写したタンパク質サンプルをチューブ等に入れてお送りください。目的のタンパク質サンプルの電気泳動による分離も承っております。(ご相談ください)

2. サンプルの測定

サンプル量に応じて通常感度 (2pmol以上)、高感度 (0.2~2pmol) のいずれかで解析いたします。

●推奨サンプル形態

通常感度分析 PVDF膜片 (CBB染色、ポンソー-S、アミドブラック染色)、溶液、乾燥品

高感度分析 PVDF膜片 (CBB染色、ポンソー-S、アミドブラック染色)、溶液、乾燥品

●処理可能なPVDF膜片の量 (1x8mm/レーン程度のバンドの場合) は、通常感度分析で10レーン分程度、高感度分析で3レーン分程度までとなります。また、Amersham Bioscience (株) の「Hybond P」は分析に使用できませんのでご注意ください。(推奨メーカー: 日本ポール、NEN、Bio-Rad、ABI、S&S、ミリポアなど)

●バッファー 通常感度分析では、TrisやSDSを含む溶液サンプルも分析可能です。事前にご相談下さい。

Edman法による内部構造決定

電気泳動 (お客様もしくは弊社)



電気泳動をしたサンプルをお送りいただくか、弊社にて調整いたします。(ご相談ください)

ゲル内消化



サンプル濃度に適した感度での解析を行います。

通常感度 (>10pmolの場合)

TOSOH -HPLC system (column ϕ 2mm) を用いてペプチドを分取。

高感度 (1-10pmolの場合)

Waters -HPLC system (column ϕ 1mm) を用いてペプチドを分取。

>2pmolの場合

0.2~2pmolの場合

0.2~2pmolの場合

通常感度シーケンス

Hewlett-Packard G1005A もしくは、Precise 494 HT を用いた配列分析を行います。

高感度シーケンス

Precise 494 cLCを用いた配列分析を行います。

●推奨サンプル形態 ゲル片 (CBB染色、ポンソー-S、アミドブラック染色、イミダゾール亜鉛染色、SYPRO-Ruby、銀染色)、タンパク質溶液、もしくは乾燥品

●処理可能なゲル片の量 (1x5mm/レーン程度のバンドの場合) は、20レーン分程度までとなります。

お問い合わせ

電話、FAX、ホームページからお問い合わせいただければ、専門の担当者が対応いたします。

電話 03-6277-8041 FAX 03-6277-8042 E-mail rs@leaveanest.com ホームページ <http://www.bi-ga.com/jutaku/sequence.html>